



～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

AI に負けない力

長浜市教育委員会事務局

教育指導課長 細江 秀樹

4月の新聞に「AI（人工知能）が東京大学の合格判定を獲得した。」との記事があり、話題になった。その時、数年前に読んだ本「AI VS 教科書が読めない子どもたち」のことを思い出した。その中には、「英語の単語や世界史の年表を憶えたり正確に計算したりすることは、AIにとっては赤子の手をひねるようなこと。一方、教科書に書いてあることの意味を理解するのは苦手である。」とあった。しかし、たった数年でAIはみるみる力をつけ、東大に合格するまでに至ったことになる。

では、AIに負けないで、これからの未来を生きぬくためにどのような力を育む必要があるのか。東北大学教授 川島隆太氏は、AI時代を逞しく生き抜くために求められるものは「非認知能力」【他者につきあう力（社会性・社交性）・感情をコントロールする能力（自制心）・目標を達成する能力（実行力・挑戦力）】であり、「非認知能力」を手軽かつ確実に伸ばす方法は、活字に触れる「読書だ!」と述べられています。教授が子どもたちの脳を調べると、読書習慣を持っている子は、そうでない子に比べて非認知能力を支える脳のネットワーク、特に言語領域がより発達していて学力にも差があり、さらに、国語だけではなく、数学や理科の成績もいいとのことである。

読書を通じて培われる非認知能力は、AIに置き換えることのできない貴重なものであり、人間が持つべき力と言えるでしょう。読書は、物語の世界に没頭させ、異なる視点を提供します。登場人物との間で共感したり、異文化を理解したりすることで、人間関係に不可欠な共感性が育まれます。例えば、難解な状況に直面したり、異なる価値観を持つキャラクターを理解したりする読書体験は、実生活においても他者を理解し尊重する態度を培うのに役立ちます。

また、読書は粘り強さなどの非認知能力の鍛錬にも効果的です。長編小説を読破する過程は、集中力と忍耐力を要します。このような体験は、目標を達成するために必要な忍耐力や努力の大切さを教えてくれます。さらに、読み進める中でしばしば遭遇する難解なテーマや複雑な構造も、問題解決能力を向上させる訓練となるでしょう。

さらに、読書は好奇心を掻き立て、創造性を刺激する力もあります。新しい知識を探求する過程で生まれる疑問や、その解決を通じて得られる満足感は、創造的な思考を促します。

このように読書を通じて鍛えられる非認知能力は、これからの社会生活においてますます重要となります。

今、子どもたちは、月に何冊本を読んでいるのでしょうか。この夏休み、どんな本に、どれだけ出合ったのでしょうか。スマートフォンやSNSの時間と読書の時間とでは、どちらが多いのでしょうか。

AIが進化を続ける中でも、読書によって得られる非認知能力は、人間ならではの強みとして輝き続けます。その力を伸ばすためにも、まずは、【よき読書習慣】を！





長浜市主催で実施した教職員研修会は全部で27講座です。小・中学校全教職員を対象とした研修内容の一部と受講者の感想を紹介します。



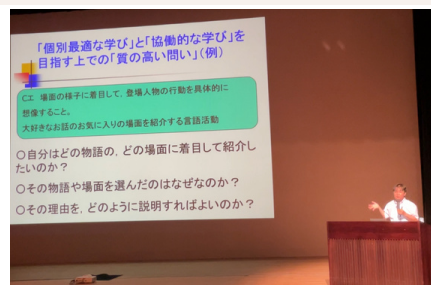
令和7年度 授業改善研修(小学校悉皆)

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す国語科の授業づくり

講師：水戸部 修治 先生 京都女子大学 発達教育学部 教育学科
京都女子大学大学院 発達教育学研究科

表現文化専攻 教授
7月25日（金）浅井文化ホール

小学校の全教職員を対象とした授業改善研修として、集合研修と動画配信によるオンデマンド研修を行いました。子ども一人ひとりに応じた支援を工夫する「指導の個別化」と、子どもが自ら学び方を調整する「学習の個性化」の両立が重要であると強調されました。また、子どもがゴールを見通し、自律的に学びを進める「ロングレンジの学習活動」が紹介され、授業づくりの新たな視点が示されました。今回の研修は、子どもが必然性を実感できる学びを構想し、国語科授業の改善に向けた大きな一歩となりました。



受講者の感想 ～研修の中で最も印象に残ったこと～

- ・従来の一斉指導の方法では、子ども達に真の力はつかない。子ども自らが目的意識をもち、探求することで、個別最適な学びになることが、よくわかりました。単元のめあてやゴールを明示することや、手立てを工夫し、より良い学びの場となるように意図を明確にして実践していくことの大切さを感じました。
- ・最も印象に残ったことは、教師が単元を構想する際には、目指す子どもの姿を学習指導要領を確認しながら具体化するということです。今後は、今回学んだような手立てを考える際の大切にするべきことを、日々の実践でいかしていきたいと思います。



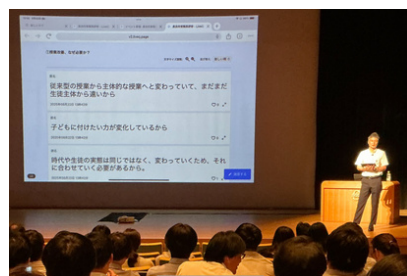
令和7年度 授業改善研修(中学校悉皆)

生徒の声を出発点にした授業改善～教員のモチベーション(働きがい)を再構築～

講師：柳内 祐樹 先生 滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課 主査

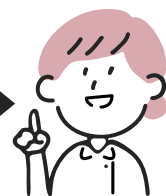
8月22日（金）虎姫文化ホール

中学校の全教職員を対象とした授業改善研修として、集合研修と動画配信によるオンデマンド研修を行いました。生徒アンケートを基に課題を明確化し、改善に向けて主体的に取り組む姿勢を重視されていました。中学校特有の教科の壁や多忙感が想定されましたが、生徒の声を授業づくりのヒントとし、教職員の協働を推進することで合意形成を進められました。G-OJTや教科横断的な授業参観を通して、生徒の学びの姿に焦点を当てる実践を展開した結果、生徒の満足感や信頼感が高まり、教職員にも自信と誇りが芽生えました。今回の研修は、生徒と教職員が共に主体的に学び合う授業に向けた大きな一歩となりました。



受講者の感想 ～研修の中で最も印象に残ったこと～

- ・やはり、生徒の素直な意見をしっかりと聞く。そして、その声をエネルギーとして授業改善を進めていく。それが子ども、そして学校を変えることにつながると思う。「生徒に」ではなく、「生徒と」を大切に、授業改善をしていきたいと思う。今までの形にとらわれない実践や取り組みを学校全体で取り組んでいきたい。
- ・仕事にやりがいを感じてモチベーションが高まるのは、取り組んできたことの成果が見えた時であり、自己も他者も「できた」と評価できた時であると思います。その評価材料として、生徒の声を出発点にして授業改善の取り組まれた成功例をご提示いただきました。取り組みには様々な苦労や工夫があったことと思いますが、結局一人で抱えずに、他者と相談してより良いものを作ろうとする取り組みにより「教師が楽しい」と思える授業が「生徒が楽しい」につながることに間違いはないと思います。





道徳教育研修の内容の一部と受講者の感想 と令和7年度教育研究事業を紹介します。



道徳教育研修 気づき感動し、自らの生き方を深く考える道徳の授業づくり

講師：横尾 俊美 先生 長浜市教育委員会事務局 教育改革推進課 学校ICT活用推進係 推進員
8月27日（水）長浜小学校

園・小・中の希望した教職員を対象とした道徳教育研修として、受講者は児童・生徒役として模擬授業を2本行いました。資料「小さな手紙」（中学校向け）では、「心の数直線」を使って心情を可視化したり、登場人物二人に共通する心について考えたりすることを通して、人との違いをどう受け止めればよいのかについて考えました。資料「いつもいっしょに」（小学校向け）では、ロールプレイ（役割演技）で登場人物になりきることを通して、くまはどんな気持ちで生きているのかについて考えました。2本の模擬授業を通して、自らの生き方を深く考える道徳の授業づくりについて理解が深まりました。



受講者の感想 ～研修の中で最も印象に残ったこと～

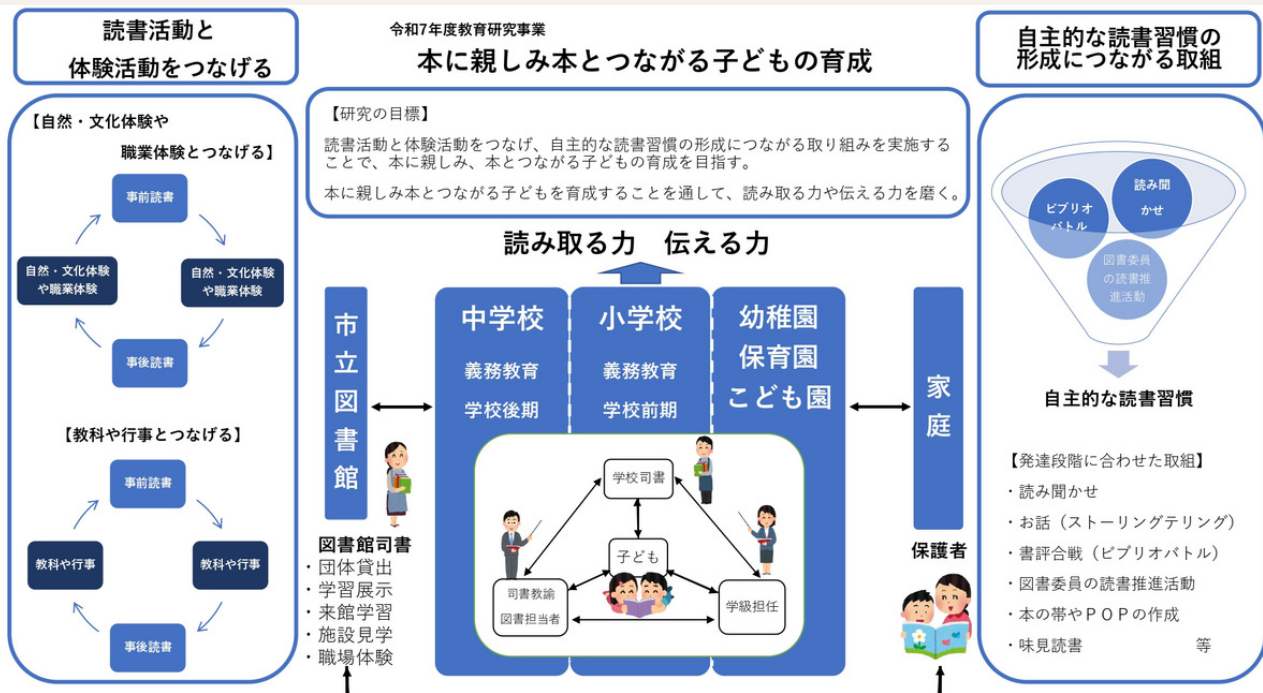
- ・道徳の時間を、楽しく、感動があつて高まる時間に！という言葉が心に残った。横尾先生がキラキラとした様子で授業の様子を伝えてくださるので、ぜひ自分もそんな子どもたちの姿がみられる道徳の授業をしてみたいと思った。どちらの資料も、いろいろな考え方を知ることができる資料で、資料を通して子どもたちが1つの経験（疑似体験）をし、自分の考えや価値観を広げていくと知り、資料との出会わせ方も工夫していきたいと思った。
- ・道徳こそ、子どもたちが楽しんで学べるようにしていくことが大切ということが印象に残った。何が大切なのか、どう考えさせていくのかを改めて考えたい。やったことが子どもたちの記憶に残る授業づくりを頑張りたい。



令和7年度 長浜市教育研究事業 本に親しみ、本とつながる子どもの育成（1年次）

■年間指導講師■ 長浜市立長浜図書館長 森 佐江子 氏

■研究協力校園■ 北中学校 長浜北小学校 神照小学校 長浜北幼稚園 神照幼稚園 北保育園
虎姫学園（後期課程・前期課程） とらひめ認定こども園





通級や支援級、通常学級でできる 自立活動を紹介します。



自立活動って何だろう・・・個々の障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導領域です。

自立活動の内容 6区分

- ①健康の保持 ②心理的な安定 ③人間関係の形成
- ④環境の把握 ⑤身体の動き ⑥コミュニケーション



自立活動ってどうしてあるの？・・・各教科において育まれる資質・能力を支える大事な役割を担っているからです。

実は、感覚統合がとても大切です。

自分の体を使ったり、道具を使ったり、人とコミュニケーションを取ったり・・・私たちは、無意識のうちに周りの環境とうまくかかわっています。これは脳に入ってくるいろいろな感覚を、うまく整理したりまとめたりしています。それは、感覚統合がうまくいっているからです。

感覚統合に問題があると・・・

- △いろいろな活動に対して、失敗することが多くなる。
- △周りからは「怠けている」「甘えている」といった見方をされる。
- △子どもは、自信がなくなり消極的になったり、投げやりになったりすることもある。

授業の合間にちょっとトレーニング

バランスの感覚、身体の位置感覚、目と手の協応動作を同時に促進できる等、優れた感覚統合遊びはいろいろあります。脳と体の協調性を高め、学習の土台を作る重要な活動です。遊びを通して得られる感覚体験が、こどもの脳内で様々な感覚情報をつなぎ合わせ、認知機能の発達を促します。

ふわふわ風船

風船の不規則な動きを目で追いながら手足を運動させることで視覚と運動感覚の協調性を育みます。

ラインウォーク

体のバランスを整え、運動コントロールやリズム感を高めます。

重いものを運ぶあそび

重いものをもつ体操は、筋肉や関節からの深い感覚入力を促し、体の位置感覚を強化します。また、力の調整力も自然と身につきます。

プッシュ&プルあそび

(おすもうごっこ、綱引き遊び、台車押しなど)

押す・引くという抵抗運動は、関節や筋肉に強い固有受容覚刺激を与えます。力の入れ具合や体の使い方が分かります。

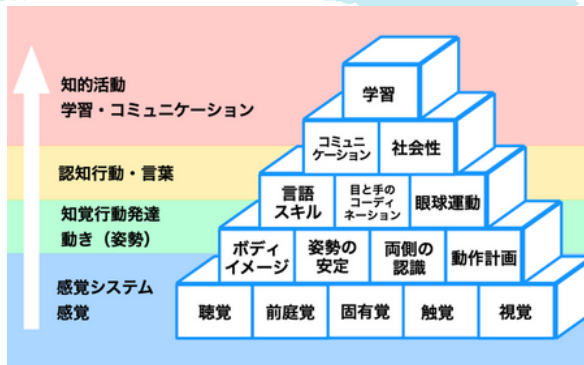
紙をちぎってちぎって

指先の巧緻性や力加減、目と手の協調性を高めます。

例えば



感覚統合を育てるあそび！療育・保育で使えるアイデアまとめ
<https://kodomo-plus.co.jp/column/3249/>
(参照2025-09-19)



感覚統合ピラミッドの底辺にある5感覚
https://note.com/yuki_kojima678/n/na377bca411f6
(参照2025-09-19)

感覚統合遊び

線から落ちないように歩く



風船に変えてみる



両手に持ってみる



感覚統合遊びは、日常生活の中で簡単に取り入れることができます。
例えば、お風呂でのシャボン玉あそびや、料理の手伝いなども素晴らしい感覚統合活動です。